

酒のまち紫波推進ビジョンについて [概要版]

紫波町産業部商工観光課商工観光係

1 紫波町における酒造りの価値

- (1) 紫波町の酒造りの成り立ちと村井権兵衛の活躍
- (2) 南部杜氏の発祥と未来に繋いでいくもの
- (3) 酒造りを通して行われたまちづくり

2 酒業界の現状と酒産業の将来展望

- (1) 酒業界を取り巻く現状
- (2) 酒産業の市場分析
- (3) 酒産業の将来と紫波町のまちづくり

3 酒のまち紫波として目指す未来の姿

- (1) 酒のまち紫波のビジョン
- (2) 酒のまち紫波のブランド確立に向けて
- (3) 酒のまち紫波の推進拠点

4 酒のまち紫波推進ビジョンで想定する事業

- (1) ビジョンの位置付け
- (2) 想定する事業分野
- (3) 酒のまち紫波推進拠点「(仮称)酒の学校」の整備
- (4) 構造改革特別区域制度の活用

5 推進体制

1 紫波町における酒造りの価値

(1) 紫波町の酒造りの成り立ちと村井権兵衛の活躍

- ✓ 南部杜氏の歴史は、近江商人である村井権兵衛が大阪から池田流の杜氏を招き志和近江屋を開業して志和で澄み酒（清酒）の醸造を始めたことが起源。
- ✓ 村井権兵衛は酒造りを通して多くの雇用を生み出し、地域全体の醸造技術を高めながら、農家の貴重な冬の仕事を生み出した。
- ✓ その高い技術に目を付けた仙台藩が南部藩から杜氏を招き、仙台で清酒醸造を担わせたことから、南部杜氏の出稼ぎ文化が確立された。

(2) 南部杜氏の発祥と未来に繋いでいくもの

- ✓ 勢力を拡大した南部衆は日本最大の杜氏集団となり、現在でも南部杜氏協会は国内最大の会員数を誇っている。
- ✓ 南部杜氏協会は酒造業界を背負っているという責任感が強く、次世代の人材を育てながら業界を支えようとしている姿勢が感じられる。
- ✓ 酒造りを通して脈々と受け継がれてきた姿勢が、今後、紫波町として未来に繋いでいくべき価値である。

(3) 酒造りを通して行われたまちづくり

- ✓ 紫波町には100年以上の歴史を持つ日本酒の酒蔵が4つ存在するほか、ワイナリーやサイダリーも存在する「酒のまち」です。
- ✓ 酒産業は町を象徴する産業であり、町の様々な地域資源を繋ぐことができる貴重な存在です。
- ✓ 南部杜氏の歴史や現代まで受け継がれている精神の価値を見つめ直し、これからの時代に求められる新たな酒産業の在り方を模索し、「酒造りを通して行われたまちづくり」の価値を未来に繋いでいく。

2 酒業界の現状と酒産業の将来展望

(1) 酒業界を取り巻く現状

- ✓ 国内の酒類生産量は1990年代をピークに減少傾向で、清酒の事業所数も減少傾向だが、ワイナリーやクラフトブルワリーの事業所数は増加傾向。
- ✓ 後継者や若手人材の不足が慢性化している。

(2) 酒産業の市場分析

- ✓ 日本産酒類の海外輸出は年々成長を続けている。
- ✓ 個性的な若手醸造家などが現れ、酒産業の多様化が進んでいる。

(3) 酒産業の将来と紫波町のまちづくり

- ✓ 社会情勢の変化により、酒産業を取り巻く環境も大きく変わった。時代の変化に伴いライフスタイルや価値観が多様化し、酒の楽しみ方や消費行動も変化している。
- ✓ 海外輸出が年々成長を続けていることを考慮すると、海外市場との向き合い方は重要なポイントになる。
- ✓ 若手人材による新しいチャレンジが行われることで、酒産業の多様化は今後ますます進むことが予想される。
- ✓ 町の酒産業に若手人材が参入し事業が創出されれば、新たな連携が生まれて地域経済が発展する。
- ✓ 紫波町ならではの多様な醸造関連事業の創出により、個性あふれるまちづくりを目指す。

3 酒のまち紫波として目指す未来の姿

(1) 酒のまち紫波のビジョン

酒と共にある暮らしを大人も子どもも愉しむまちをつくる
～おもしろい！が止まらない。酒のまち紫波。～

(2) 酒のまち紫波のブランド確立に向けて



100年後に100の醸造関連事業者を生み出す

(3) 酒のまち紫波の推進拠点

醸造関連事業者の集積を進めるためには、外部から新たな人材を巻き込み、育成していく機能が
必要だと考えられます。

4 酒のまち紫波推進ビジョンで想定する事業

(1) ビジョンの位置付け

第三次紫波町総合計画の第2章「豊かな環境と町の魅力を生かしたなりわいがあるまち」を酒を切り口にして推進するための方向性を示す。

(2) 想定する事業分野

事業分野	想定する事業内容
農業・観光	酒米生産、ワイン用ブドウ生産、ツーリズム
食	酒粕料理、発酵食品、ノンアルコール飲料
地域	生業創出、地域活性化、地域課題解決
関係人口	二地域居住、副業、インターンシップ
教育	小中学校のふるさと学習、高校の総合学習
歴史・伝統	南部杜氏協会、平井家住宅
新技術	ICT、IoT、AI
環境	副産物活用、資源循環、里山保全

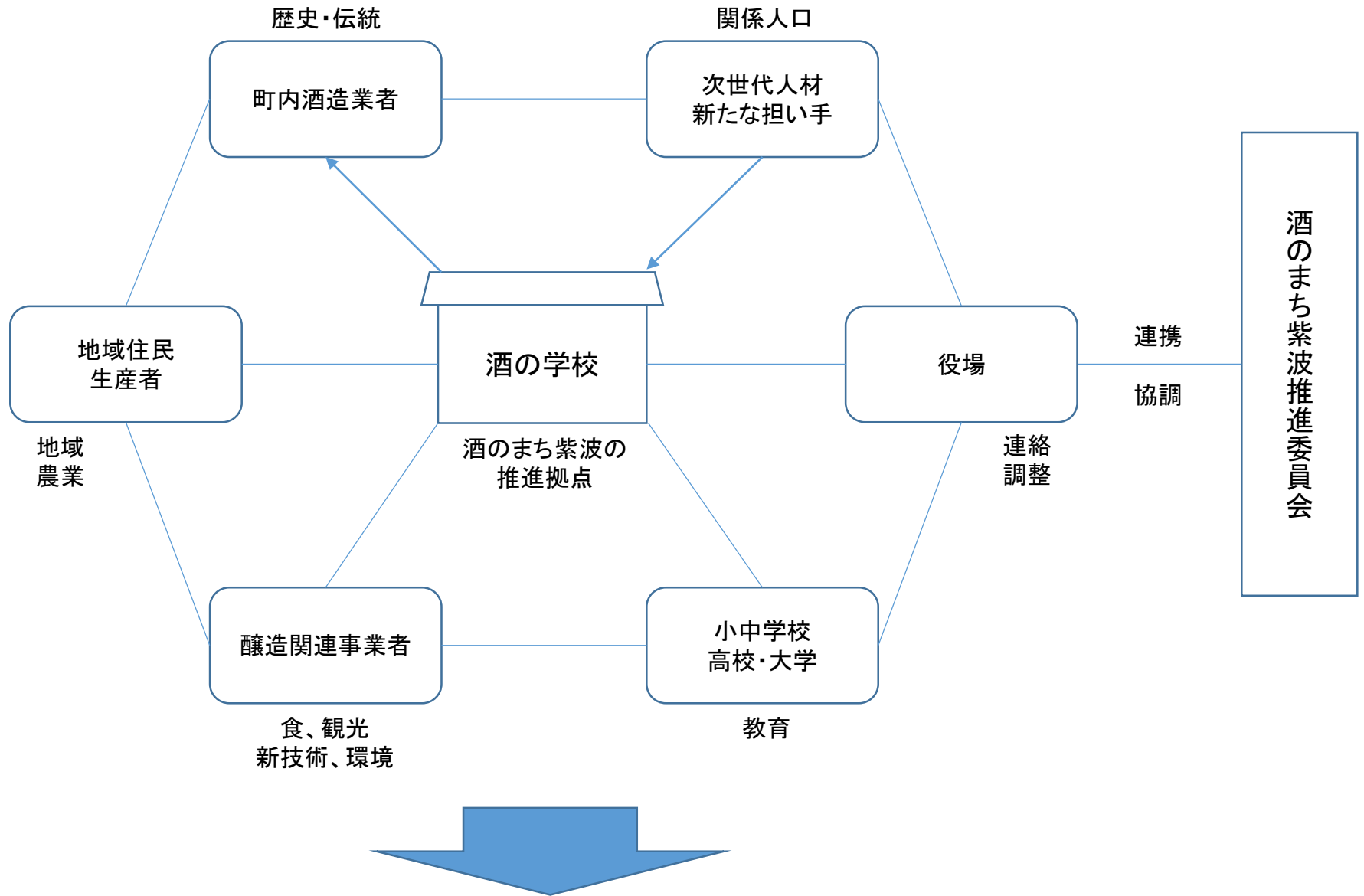
(3) 酒のまち紫波推進拠点「(仮称)酒の学校」の整備

酒の学校は、醸造関連事業でチャレンジしたい全国の若者が集う場所を目指す。酒の学校から醸造人材を輩出し、町内各地で醸造事業が展開されることにより、紫波の醸造文化を新たなかたちで未来に繋いでいく。

(4) 構造改革特別区域制度の活用

時代に合わせて市場を活性化するため、酒税法の規制緩和のための特区制度の活用を検討する。

5 推進体制



「酒のまち紫波」ブランドの確立